

# 社会科

吉 川 昌 博  
森 田 誠 一  
松 下 浩 一

## 1 社会科の本質について

私たちは社会科の本質を、教科においてめざすものとして次のように考えている。

様々なかかわりをもった社会の中で生きる人々の生活について理解を図ることにより 社会の一員として問題を解決しながら 主体的・創造的に生きていくための力を養うこと

私たちは様々なかかわりをもった社会の中で生きている。人間と人間のかかわり、人間と社会や自然、文化などのかかわりである。そのような社会の中で、子どもたちは将来の学習や生活の場において、様々な課題や問題場面に出会い、それを自分なりに解決しながら主体的・創造的に生きなくてはならない。そこで、子どもたちが社会の一員として生きていくための力を養うことを社会科のめざす本質と考えた。

## 2 本質にもとづく基礎・基本について

全体論において、教科における基礎・基本に関わっての内容を、「今の生活において、あるいは今後の生活において、その基盤になったりよりどころになったりすること」「結果として獲得し残っていくもの」ととらえている。

社会科においても同様に「様々なかかわりをもった社会の中で、社会の一員として問題を解決しながら、主体的・創造的に生きていく上で基盤となったりよりどころとなったりするもの」と基礎・基本をとらえ、以下のように考えた。

- ・社会的事象から問題を発見し その解決方法を自分なりに考え 解決する力を身につけること
- ・社会的事象について理解をするとき視点となる知識を身につけること
- ・社会的事象を意欲的に調べることを通して 社会の一員として自覚をもつこと

この3点が社会科の学習において獲得されていけば、子どもたちが将来の学習や生活の場において、問題を解決しながら主体的・創造的に生きていく上で基盤やよりどころとなるのものと考える。

## 3 自己の学びを広げ深めるについて

教科の学習において自己の学びを広げ深めることを「基礎・基本に関わっての内容を、自ら自立的・自発的に学び獲得していき、新しい自分らしさ、自信のもてる自分を創っていくこと」ととらえている。私たちは、子どもが自ら自立的・自発的に学び獲得しながら、新しい自分らしさ、自信のもてる自分を創っていけば、学習のあらゆる場面において、子ども一人一人のよさや持ち味などの個性が、言動やふるまい・表情など生きている姿として表現に自然に表れると考えた。

そして、子ども一人一人が生きている姿を表現しながら、社会科の基礎・基本を学び獲得していくということは、「自分とのかかわりから社会的事象を見つめたり、その子なりの社会的事象に対する見方・考え方を広め深めたと実感したりすること」であると考え、それを社会科の自己の学びを広げ深めることであるととらえた。そしてこれまでの実践から、自分と社会的事象、自分と学び方、自分と友だちや教師・地域社会との「かかわり」を大切に社会科学習を構想することが、社会科の自己の学びを広げ深めることにつながると考え、「かかわり」を4つの視点からとらえ直すこととした。

### (1) 社会的事象との主体的なかかわり

子どもが学習の対象である社会的事象と主体的にかかわることである。主体的にかかわるとは、社会的事象に対して自分なりに目的意識と行動力をもって取り組むことであり、社会的事象を他人の問題としてとらえたり、単なる知識レベルで理解したりするのではなく、自分自身や自分の生活とのかかわりでとらえることである。子どもが社会的事象と主体的にかかわることは、学習によって獲得された力や知識をその後の学習や生活の中に生かすことにつながると考えられる。

### (2) 学習の仕方に対するかかわり

問題に対する追求の方法やまとめ方など、子どもの学習の仕方に対するかかわりを大切にすることである。子どもの学習の仕方に対するかかわりを大切にすることは、自分の思いを大切にしながら学習活動を子ども自らが考え、組み立てていけるよう支援することである。つまり、子ども自らが学習の方法を選択し決定することを大切にすることであり、このことは子ども自らが学習活動をつくり上げていくことでもある。

### (3) 子ども相互や教師とのかかわり

子ども相互や教師とかわる場や機会を設けることにより、友だちや教師とかわりながらそれぞれのよさを学び、学習の質を高めていくことである。子どもは周囲の友だちや教師から支えられ認められ励まされながら学習に取り組んでいることに喜びを味わうようになり、学習に対する意欲を高めていくことになる。

### (4) 地域社会とのかかわり

子どもと地域社会とのかかわりある学習を重視していくことである。それは積極的に地域の素材を教材化したり、地域の施設や住んでいる人たちに協力を要請したりすることである。地域社会とのかかわりを重視した学習を進めることによって、子どもたちは地域社会と自分自身や自分の生活とのかかわりを強く意識するようになり、地域社会の一員としての自覚をもつようになる。

以上、社会科の本質とそれにもとづく基礎・基本、社会科における自己の学びを広げ深めるについて述べてきた。さらに詳しくは実践例の中で述べていく。

#### 4 実践例 — 5年—

##### (1) 小単元名 野菜作りのさかんな地域 —加賀美人の生産—

- (2) 目標
- ・ 地域のねぎ農家の調査や農協の人への聞き取り活動を通して、野菜を作り出荷するまでの農家の工夫や努力を知り、わたしたちの生活と野菜を生産する農家とのつながりについて自分なりの考えが持てる。
  - ・ それぞれが聞き取ってきたことを関連づけて自分なりにまとめ、野菜作り農家の工夫や努力、思いについて新聞に表現することができる。

##### (3) 指導にあたって

###### 学習材について

わたしたちの学校の周辺には、野田山の傾斜地を利用した田や畑が多く見られる。歩いて数分の所に花やねぎ・じゃがいも・豆などのいろいろな野菜が作られ、野田地区にはたくさんの農家がある。特に、ねぎの生産は、金沢市の中でも、ここ城南・富樫地区の出荷量は一番多く、一年中ねぎ畑のさまざまな様子が見られる。

地域のねぎ農家を見ていくことは、兼業農家である地域の農家が生産の工夫や努力を重ね野菜を作り続け、共同して出荷している姿にふれることになる。また、地域に対して、自分なりの疑問を持ち、その解決に向けかかわっていく体験的な学習が可能になる。

つまり、何気なく目にする野菜畑から、生産にたずさわる人々の工夫や努力、思いに接し、農家と自分たちの食生活のつながりを意識するのに、効果的な学習材だと言える。

###### 本単元の基礎・基本

この単元では、米の生産で学習した「土作り」「作り方の工夫」「機械化」「生産量や出荷」「農家の一年」「品種と消費者のニーズ」などの既習をもとに、野菜作りを考え調べていく。ねぎ農家を調べることで明らかになると思われることは、次のことである。

- ・ 秋ねぎ、夏ねぎと一年を通して、多くの仕事を機械の導入による効率化
  - ・ 立派な白ねぎを作るために、何度も繰り返される土盛り作業や風と雨による被害からねぎを守り育てる労力
  - ・ 金城、富樫農協と生産者の三者の協同で年間7万箱(約210t)を金沢市や近畿地方に出荷する共同化 等
- ねぎづくりの実態と供給を知り、より消費者に好まれるねぎを毎年生産し続けたいという農家の思いにふれる。

このような学習を進める中で、子どもが身につけて欲しい本単元の基礎・基本を次のように考える。

一つ目は、農家のねぎ作りを自分たちの生活や地域の様子と結びつけて考えながら、農家の苦

##### 単元計画 (総時数5時限+課外)

主な活動と内容	学びを広げ深めるために
1 ねぎ畑の様子から疑問を持つ ①④	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校の近く畑を観察する</li> <li>・ 切り倒されている畑 10cm芽を出した畑 30cmぐらいに伸びた畑</li> <li>・ ねぎの作り方と出荷の仕方を予想する ②</li> </ul>	
ねぎはどのように作られ 作ったねぎはどこへ出荷されるのだろう	
2 自分の疑問を解くための計画を立てる ②	
3 地域の人から聞き取る ①②④	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;">                     野田地区の農家 村田さん 野村さん 野崎さん                 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;">                     農協金城支所 城南センター部会 小林さん                 </div> </div>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 畑づくり 作り方と世話 いつから なぜねぎを</li> <li>・ 使う機械 品種やおいしいねぎ 工夫や願い</li> <li>・ 出荷時期 収穫量 大変なこと 困ること</li> <li>・ 出荷先や出荷方法 農協の仕事 値段</li> </ul>	
4 ねぎ作りの工夫や努力について話し合う ③④	
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     作り方の工夫—                      ① 種植えと土盛り                      ② 秋ねぎと夏ねぎ                      ③ 肥料と農薬                      ④ くい打ちとテープ                      ⑤ 根腐れを防ぐ水調整                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     出荷の工夫—                      ① 大きさと質 箱詰め                      ② 午後集荷場へ朝市場                      ③ 一年間で七万箱                      ④ 金沢市や大阪へ                      ⑤ 「加賀美人」の名                 </div> </div>	
一年中 忙しい思いをして ねぎを作り続けている	
5 調べたことを一枚の新聞にまとめる ②③	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習したことや学習の仕方についてふりかえる</li> <li>・ 互いに新聞を見合い それぞれの良さを話し合う</li> </ul>	

労や生産と出荷の工夫を知ること、産業活動を理解する上での視点となる知識を身につけることである。二つ目は、地域の様子に疑問を持ち、地域の人から学び、互いに学んだことを出し合い、自分の考えを練り上げ一枚の新聞にまとめることによって、社会的事象から問題を発見し、一連の問題を解決をする力を養うことである。この農業学習で得た力は、これからの学習を進める時の社会的事象を考え、問題を追及して行く時の力となると考えた。

### 学びを広げ深めるために

#### ① 社会的事象との主体的なかかわりを大切にする

体験的な活動として「ねぎ畑の観察」と「農家への聞き取り」を考えた。日頃、身近に見ているねぎ畑を見直す観察では、子どもはねぎや畑のさまざまな様子を不思議に思い、疑問を持つことは社会的事象を見つめるきっかけとなる。また、農家の聞き取りでは、自分の疑問を明らかにするためだけでなく、その人柄や考え方にふれ、多くのことを学ぶであろう。見慣れた様子から疑問を持ち、地域の人から学ぶことが社会的事象に主体的にかかわる姿だと考えた。

#### ② 追求方法やまとめ方など子どもの学習の仕方に対するかかわりを大切にする

ねぎ作りを予想することによって、各自の疑問をより明確なものにし、見通しを持った学習計画を立てる。予想での一人一人の考えを大切にすると共に、質問を整理する聞き取りカードや新聞づくりで、考えを整理したり、まとめたりする時間を保障する。そして、それぞれの活動で、自分の理解したことや学習の仕方について振り返らせ、各自のねぎ作りに対する思いや考えの深まりを意識させたい。

#### ③ 子ども相互や教師とのかかわりを大切にする

それぞれの農家の人から聞き取ったこと出し合いながら、クラス全員で、ねぎの作り方の全体を明らかにし、ねぎ作りに対する子どもの思いを大切にしていく。自分の調べたことが全体に位置づけられ学習に役立ったと思えたり、友達の調べたことを結びつけて考え、新しい発見をすることは、個々の社会認識を深めたり、互いのよさを認め合うことにつながると考える。

#### ④ 地域社会とのかかわりを大切にする

積極的に地域に出て、畑の様子や五軒の農家の人、農協の人から聞くことを通して、地域社会に対する関心を高めたい。また、聞き取り活動を通して、農家の人柄や思いにふれることで、子どもは地域への親近感を持つであろう。一人一人が自分の生活とかかわって地域を見ていくきっかけとなる学習にしたい。

### (4) 本單元における授業の実際と考察

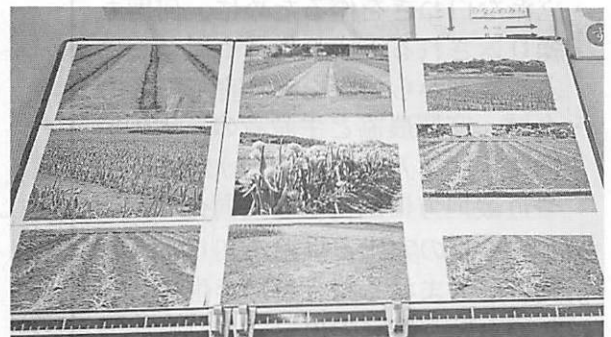
授業の実際と考察を①～④の4つの視点から述べ、教科の基礎・基本について考える。

#### ① 社会的事象との主体的なかかわりを大切にする

本單元では子どもたちが地域に主体的にかかわるために、導入でのねぎ畑の観察と追求活動の中心となる農家への聞き取り活動を考えた。

ねぎ畑の観察では、ねぎ畑のさまざまな様子に細かな観察ができた。

- ・ 10cmほどに伸びた草のような苗
- ・ 25cmほどにまっすぐと伸びているねぎ
- ・ ねぎ坊主をつけた立派なねぎ
- ・ ねぎの上を切り落としてあるもの
- ・ ビニルをかけた畑
- ・ 根本から切られたねぎが散乱している畑
- ・ 杭を打ち倒れないようにテープを巻いてある畑



畑の様子

子どもは、特に、ねぎの花を切り落としてあるものと切り倒されたねぎが畑に散乱している様子に驚き、不思議に思った。畑での子どもは、「これがねぎの苗?」「ねぎはいつでもできるのか

も「まっすぐ伸びるのだろうか」「ならした所にも種をまくのだろうか」と友達と話しながら、意欲的にあちこちの畑を回り疑問に思ったことをノートに書いた。

- ・ねぎはどれくらいで大きくなるのだろうか
- ・なぜ、わらを下にしているのか
- ・大きいねぎ坊主をとらずに置いてあるのか
- ・なぜねぎをほっといてあるのか
- ・ねぎの白い部分は土の中だろう
- ・苗作りをして、植えかえるのだろうか
- ・せっかく作ったねぎをなぜ倒すのだろうか
- ・機械でおもしろく皮をむいている
- ・なぜ水洗いをしないのだろうか
- ・トラックに乗せむいたかわをどうするのか
- ・ねぎをどこへ運ぶのだろうか など

**主な疑問**

収穫や出荷と多方面に渡った。下の日記からも、ねぎ畑を見た時の新鮮な気持ちと調べる意欲が見られる。

地域の人とのかかわる農家への聞き取り活動では、子どもは、数人のグループに別れ、五軒の農家の人を尋ねた。村田さん・野崎さん・池村さん・池野さん・村田(武)さんの五人は、この地区で長年ねぎを含めた野菜作りをしている。出荷時期には、どの農家も毎日30~50箱をねぎ部会を通して、市場に出している。

子どもは、3年生の時に地域の末岡さんの「りんご作り」で農家の人と接した経験はあるが、今回のように、自分たちだけで人を訪ね、話を聞くのは初めてである。グループで相談しながら少し緊張した様子で出かけた。農家の玄関先や仕事場、実際の畑や苗を作るビニールハウスの中で、話を聞くことができた。ねぎづくりの資料や品質選別規格表や苗やシール「加賀美人」をもらって、満足げにもどってきた。残念ながら農協へ出かけた子たちは聞き取りができず、農家の聞き取りへ別れて参加した。農協へファックスで質問し、その返事を待った。

農家の人から子どもたちは、多くのことを学んだ。S子のように聞き取りカードいっぱいに取り取ったことをメモした子も多く、真剣に耳を傾け農家の人のお話を聞いている姿が見られた。また、自分が持った疑問以上にねぎ作りについて知識を広め、ねぎのことならよく知っていると自信ある姿がみられた。そして、農家の人のお話に対する思いにもふれ、早くみんなの話も聞きたいと学習意欲も高まった。

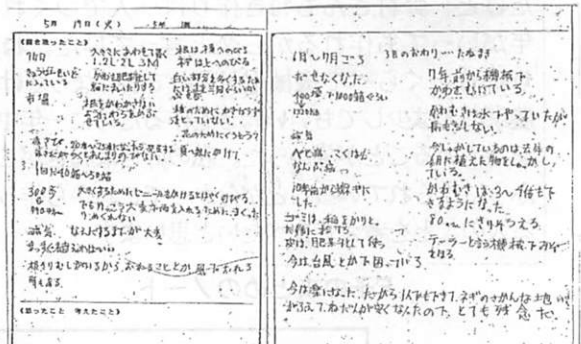
一度オリエンテーションで学校の周りの畑を見た後に畑を見に行ったり五軒の農家に別れ自分たちだけで農家の人に聞き取ったことは、畑と農家の人との出合わせ方として有効であり、地域に主体的にかかわることができたと思う。

また、ねぎ畑を観察した帰り、偶然にも、出荷作業(切断とかわむき)をしている農家を見ることができた。機械を使って空気の力で一瞬のうちに汚れたかわが取れていく様子を興味深く見ていた。

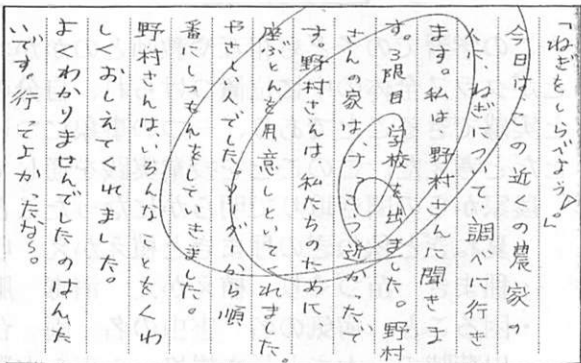
ここでの活動では、左の主な疑問からも見られるように、問題意識としてはまだ浅いものであるが、細かな観察を通して、だれもが自分のこだわりから疑問を持つことができた。また、出荷作業を見ることができたこともあって、個々の疑問はねぎの成長やうね作り、



**ねぎ畑を観察した日**



**S子の聞き取ったこと**



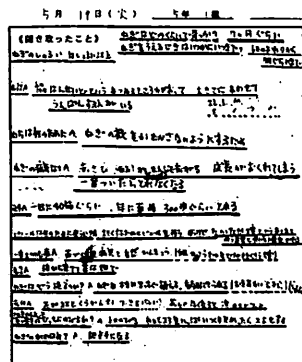
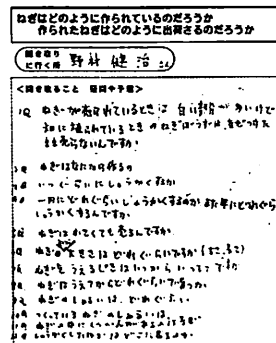
**農家を尋ねた日**

② 追求方法やまとめ方など子どもの学習の仕方に対するかかわりを大切に

ここでは、ねぎ作りの予想と見学カード、ねぎ新聞から、個の学習へのかかわる姿を見ていきたい。

子どもたちが考えたねぎ作り

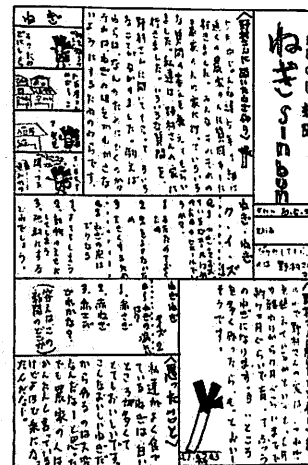
- 1 種をまき ビニルをかけて苗をそだてる  
(なくてもいい)
- 2 うねを作って苗を植えかえる
- 3 大きくなったらうねを高くする  
水やり 肥料 農薬などの世話
- 4 収穫の時上の方を切って土から掘る
- 5 長さをそろえて機会でかわをむく
- 6 同じ太さのものを箱に詰めて出荷



F子の聞き取りカードと新聞

子どもたちの予想は、かなり農家のねぎづくりに近い。「白い所を食べるのだから土を盛る」「曲がらないためにうねを高くする」「切ったり倒してあるのは腐って肥料になる」など、自分なりにねぎや畑の様子を意味づけて発言する子も多かった。この予想した話し合いをもとに、カードに自分の質問を整理する時間をとった。

はじめは、あまり疑問を持たなかったF子だったが、この話し合いで、多くの疑問を持ち、農家でもしっかりと自分の疑問を聞きとっている。また、新聞づくりでもマンガやクイズを入れながら、野村さんのねぎ作りについて楽しくまとめている。学習の振り返りでも、野村



(前略) 野村さんから、ねぎはどうやって...? のくらいで...? とか教えてもらっていい経験をして良かったです。(中略) 私は大変そうだと思うけど、野村さんもねぎ作りは一人でつくれるし年がいても作れるから楽と言っていた。ねぎ作りは昔とくらべて機械化が進んで楽になったけど、農家の人は少しでもいいねぎを作るために一年中仕事をしていることが分かった。私の好きなねぎがこんなふうにならされていることが分かってこれから作っている人のことを考えて食べたいと思います。

さんに会ってからねぎを見た時の気持ちの変化をノートに書いています。

F子のまとめのノート

しっかりと予想を立てることで、個々の問題意識がはっきりとしたこと、子どもが望んだ通り農家への聞き取りが実現したことは調べる意欲を高めた。学習計画を自分たちで立て、見通しを持って学習が進められたことで、自分たちで立て、自分なりの調べ方やまとめ方を工夫しようとする姿につながったと考える。

③ 子ども相互や教師とのかかわりを大切に

この学習での子ども相互や教師とのかかわりを大切にすることは、それぞれの調べたことがクラス全体の中に位置づけられ、自分の調べたことが学習を進め深めていくために役立たと実感できることであり、一つの事象について互いに考えを出し合い、社会認識を深めていくことだと考えた。このことを授業実践を通して述べていきたい。

農家からの聞き取りで明らかになったことは、次のようなことである。

- ・夏ねぎと秋ねぎの種まきと植えかえ 収穫 などの時期
- ・種まき 苗づくり 植えかえ 消毒 肥料 土盛り などの仕事の時期や回数
- ・困ること 病気の名 害虫の名 雨 台風
- ・出荷時の 太さと長さ規格 1束の本数 10束1箱 各農家の出荷数
- ・集荷場から金沢中央市場と大阪への出荷

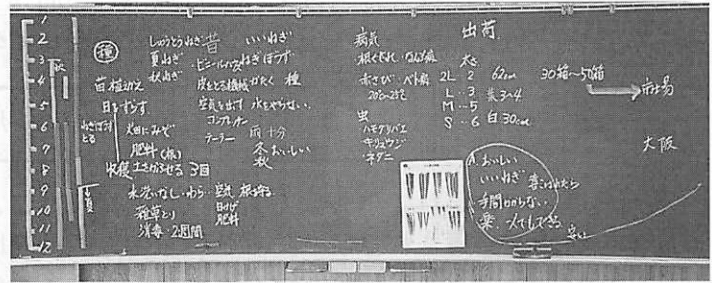
また、農協の雲田さんからの返事で、ねぎ作り農家が70軒あることや金城地区が年間七万ケースと県内で一番多いことが明らかになった。集荷時間や出荷先、「加賀美人」と名をつけた理由や農協と地域の農家のつながりも明らかになった。

子どもの発言を

- ・ねぎ作りの仕事（収穫まで）
- ・確かな生産（困ること）
- ・ねぎの品質
- ・出荷

の四つの観点で板書に位置付けて行った。

子どもは聞いた多くのことを意欲的に発言した。また、友達の発言も自分の調べたことと比べながら聞き、活発に授業は進んだ。



聞き取った内容が多く、ねぎ作りの細かな部分に及んだことや五軒の農家の少しの違いで似通った発言が続いたこともあった。

ねぎづくりの全体がおおむね明らかになった時点で、子どもにねぎづくりについてどう思ったかを問いかけた。子どもの多くはたくさん仕事で大変だという意識だったが、農家の人はどう思っているかの問いに一瞬考えが止まった。

右の授業記録から、C1～C4は農家の人の声である。子どもは言葉通りに受け取り、ねぎ作りは楽だという意識になった。この農家の人の言葉から仕事の苦労や工夫に気付かせたいと考え、C4までの農家の人の声を確認し認めた上で、T2で調べてきた仕事を見直す視点として「ねぎと水」について考える助言をした。C5で農家の人の言葉からねぎは水に弱いことを再認識し、C6～C9で次々と発言がつながり、「水をやらなくていい」の中に、いろいろな仕事があることを考え出していった。T3で他に目を向けさせると、子どもは農具の世話や見回り、土堀りなど聞き取れなかった具体的な多くの仕事を考え出し、仕事の大変に気づいていった。

T5は農家の人の思いに触れさせたいと考えた発問である。C13ではいろいろな考えが出されたが、みんなを納得させるだけの意見は出てこなかった。C14は長年ねぎ作りをしているからこそ分かる昔の仕事の様子を思い、今の農家の人の気持ちを考えたものである。この意見にみんなは納得し、農家の昔の苦労と思いに迫ることができた。

- T1 農家の人はどう思っているのだろう
- C . . . .
- C1 おいしいねぎを作りたい . .
- C2 みんなに喜んでもらいたい
- C3 水をやらなくてもよく楽だと言って .
- C4 手間がかからず一人でも作れると . .
- T2 農家の仕事を見直して見よう  
水をやらなくても . . 考えてみよう
- C5 ねぎは水に弱くやりすぎると根腐れ .
- C6 雨が続くと困る
- C7 畑の水はけをよくしないと . . .
- C8 大雨の時など畑から水を流さなければ . . .
- C9 水をやらなくてもいいけど代わりに仕事
- T3 水の他にもありそうだね
- C10 機械を洗う仕事もあるし . .
- C11 病気にかかっていないか見回りにも . . . .
- C12 収穫の時は ねぎを掘る仕事もある
- T4 毎日 何本掘るのだろう  
C 50箱10束3～4本 1500本ほどだ  
: (夏ねぎの場合1年がかり)  
: やはり 仕事が多く大変だという意識
- T5 これだけたくさんの仕事があるのに五人はなぜ楽だと言ったのだろう
- C13 長年しているから 慣れているからだろう  
上手だから 毎日しているから
- C14 村田さんは三十年ほどねぎを作っていて 昔は今のよう機械がなくて どの仕事も手でやっていたと思う だから 昔に比べて楽と言ったと . .

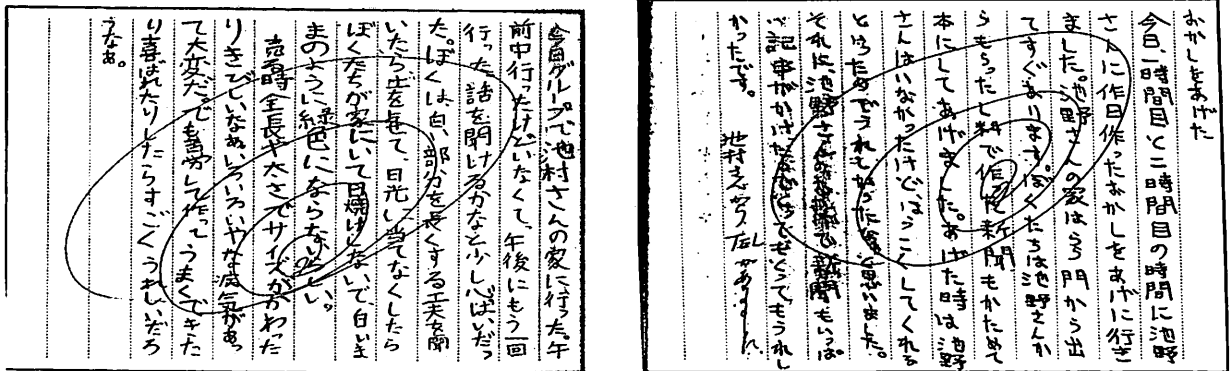
この授業で子どもは、ねぎの生産から出荷までの農家の人の仕事それぞれの農家で違いはあるが、おいしくよく売れる規格にあったねぎを長年に渡って作り続けている努力を知った。そして、高齢にもかかわらずねぎの生産を続けられたのは、機械の導入や肥料と農薬の改良が進んだことに気づいていった。

調べたことを話し合う場では、子どもの調べたことをどのように位置づけていくか、また、どの子も何のために調べたことを発表しているのかを自覚する手だてや調べたことをすべて認める教師の姿勢が大切である。そして、調べたことをもとに子どもが社会認識を深めていく時には、

教師は子どもが考えやすい事象を取り上げながら、何を考えさせたいのかをはっきりと伝わる発問や子どもの考えに共感し、受け入れる姿勢が大変重要なことが明らかになった。本時では、調べた事実や事実を関連づけて考えられることを出し合い、新しい発見ができた。また、個々の発言に対して、よく聞き「なるほど」とうなづく場面が多くあった。社会認識を深めるだけでなく、みんなから認められたことを実感することで、楽しく学習を進めることができたと考える。

④ 地域社会とのかかわりを大切にする

五軒の農家に分かれて小人数で聞き取りに行ったことは、多くの点で効果的であった。各自の質問する時間が保障され、ゆっくりと農家の人のお話を聞くことができたこと、聞いた内容をみんなに知らせようと学習参加の意欲を高めたことや多くのことを聞いたことなどである。また、下の二人の日記からは農家を尋ねたときの不安と安心感、お礼の新聞を心配する気持ちが表れている。農家に自分たちで尋ねることの緊張感を持ったことややさしく答えてくれた農家の人への親しみを覚えたことは、人と接するよい体験ともなった。学習のまとめとして作った一人一人の新聞の中にも、やさしく分かりやすく話してもらった農家の人への感謝・自分のねぎや作り方に対する見方の変化・農家の方の思いにふれる感想が見られる。



実際に子どもは、オリエンテーションの畑の観察、ねぎ畑の観察農家への聞き取りとお礼の訪問と四回の活動をした。このことが可能だったのは畑も農家も学校から五分と活動の時間が保障できたからである。地域に出て、いずれ自分たちが食するものがどのように作られているのかを、自分の目と耳で確かめたことは、地域社会と自分の生活とのかかわりを意識し、人とつながりを強く感じた学習ができたと言える。

ぼくはたくさんねぎをなにも考えずに食べていたけれど、そのうらで村田さんのように農家の方がいっしょうけんめい作っているんだな～

いろいろな質問の答えを教えてくださいありがとうございました。病気や農薬、機械のことが良く分かりました。

S男

私の今までのねぎへの思いは、においがすごくちよつとカライ、でも、あっさりしていておいしい！ねぎについて聞いたり調べたりして、ねぎ作りはカンタンなんて言うけどきつと1つ1つ思いをこめて作ってくれたんだろうなと思いました。だから感謝して食べたい。

H子

二人の新聞の中の感想

これまで学びを広げ深めるために考えた①～④の視点で考察してきたが、本単元で考えた社会科としての基礎・基本と照らして振り返って次のようなことが言える。

子どもは自分自身や自分の生活とかかわりを持って社会事象を見てきた。そして、食料生産を営む人々の苦労と工夫を重ね共同して生産を続けている姿を見るとともに、働く人たちへの共感や感謝の気持ちを持つことができた。一方、学び方においても、問題を発見し、解決するまでの一連の問題解決を主体的に進めことができた。このことから、①～④での取り組みは効果的であったと言える。また、ここでの学習したことは、これからの生産活動を見て行くときの考える視点となり、自分なりのこだわりを持って社会的事象を見る時に役立っていくと考える。